

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧  
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 北海道羅臼高等学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

住所 〒086-1834  
北海道目梨郡羅臼町礼文町9番地3

E-mail : rausu-z0@hokkaido-c.ed.jp

Website : <http://www.rausu.hokkaido-c.ed.jp/>

児童生徒数：男子 52 名 女子 55 名 合計 107 名  
 児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

### 1 第70回日本ユネスコ運動全国大会 in 知床

全国大会が斜里町で開催され、本校は自然環境科目群の授業で取り組んだ海岸漂着物の分析の結果を発表した。海岸で見つかるペットボトルは漂着したものは、「どこかで」「誰かが」環境を汚す行為を行った証拠である。これを減らす取組をするだけで、ゴミの量はかなり減らすことができるという内容であった。

また「若者のつどい」ではあまり交流が活発ではないため不安があったが、ミーティングを行い、参加者の自己紹介に続いてこの「つどい」の趣旨説明をした。まだまだ皆の表情は硬かった。

だが、話し合いが進んでいくにつれてそれも次第にほぐれ、寝食を共にしていく中で親しみも湧き、自主的に互いに発表のリハーサルを見せ合う姿があった。

そして、四校の高校生たちはそれぞれに自分たちの日頃の実践とその成果を全国からの参加者に向けて立派に発表した。

全国大会での発表は、多くの参加者から高く評価され、その晩の交流レセプションの席でも高校生たちのいる所を訪れて歓談する参加者が後を絶たなかった。

この成果は、ユネスコ協会連盟はじめ各地のユネスコ協会のホームページなどで報告されているばかりでなく、参加した会員や関係者のブログなどでも広く紹介されている。

また、参加した高校生も参加者も大きな達成感を得たものと思う。そして、それ以上に参加者との交流を通して、学校での活動が社会的な評価に値するものであることをあらためて確認でき、自信を得たことであろう。

さらに、四つの高校の生徒同士の間「知床」という共通の場を通じた連帯感が生まれたであろうことも想像できる。

今後、何らの形で四校交流が継続されたならば、知床地区の高等学校教育は一層充実していこう。これは、児童生徒数の減少に悩む地域における高等学校の在り方について、一つのモデルを示すことになると考えられる。



### 2 羅臼町中高合同講演会 兼 知床ユネスコフォーラム

10月3日(金)に、NPO法人トラ・ゾウ保護基金理事長の戸川久美氏を講師として、羅臼高校、羅臼中学校、春松中学校の全学年が一同に会し、羅臼高校を会場に絶滅に瀕するトラ・ゾウ・イリオモテヤマネコの現状と保護活動に関する講演を行った。

将来、羅臼町を担っていく中学生・高校生たちは今回の講演会を通して、自然に対する考え方や野生動物を大切にしていこうという心構えを学ぶことができた。



### 3 羅臼町幼小中高一貫教育 町内ユネスコスクール発表会

12月10日(水)、町内の小中学校、高校が一堂に会し、知床学で学んできたESD(持続発展教育)で研究してきた成果を発表した。本校は、「創作料理プロジェクト」から今年度の実践研究メンバー3年生6名、2年生3名が地元の食材を活用し、地元をPRするため、メニューの創作から販売に至るまで昨年度からの2年間分の活動報告を行った。

プロジェクトリーダーの生徒から「来年度以降、私たちの意思を受け継いで活動してほしい」というスピーチに心動かされ、次の世代を生きる後輩に羅臼をもっと盛り上げ、持続可能な取組へと発展していくこと期待している。



### 3 中高一貫教育とのかかわり

- 【連携の基盤】 地域＝知床の自然、羅臼の産業・歴史  
人間＝生徒の可能性の実現、保護者・地域の願い、教育力
- 【連携の基本理念】 豊かな自然に恵まれた環境の中で、生徒一人一人の個性や可能性の伸長を図り、確かな学力の定着を目指すとともに、ふるさと羅臼に誇りを持つことができる人材を育成する。
- 【連携のテーマ】 「地域を愛する生徒の育成」
- 【連携の柱】
- |              |   |        |
|--------------|---|--------|
| ① 確かな学力の育成   | → | 学力向上部会 |
| ② 郷土愛・勤労観の育成 | → | 総合学習部会 |
| ③ 健全な心身の育成   | → | 特別活動部会 |

### 4 「確かな学力の育成」に向けた特色ある取組

#### (1) 自然環境科目群「海洋生物」(水産教室)

- ア 概要 今年で30年目を迎えた歴史ある活動で、漁業自営志望者を対象に生きがいのある学校生活を送らせることを目的に「水産教室」という名称で企画し、町の教育委員会、漁業協同組合と高校の三者が協働で進めてきた。
- 昨今は「海洋生物」として位置づけ、ロープワークやダイビング実習、水産加工の実習など羅臼町の産業にダイレクトにかかわり、地域に根ざしたキャリア教育として成果をあげている。



#### イ 学習内容

ロープワーク、ウニ種苗センター見学、ダイビング、気象講習・深層水学習、巡視船でしお体験航海、海難防止講習、イカの燻製加工、海鳥・鮭に関する講習など

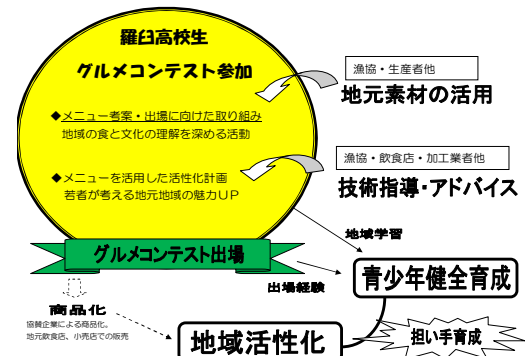
#### ウ スクーバー・ダイビングについて

- 【期間】 6月 ダイビング講習(8時間)  
9月 ダイビング実習(20時間; 補充も含む)
- 【内容】 漁業協同組合から委託された「知床ダイビング企画」のインストラクターが、講習と実習を受け持ち、スクーバー・ダイビングのCカードライセンスの取得を目指して実施している。



#### (2) 家庭科「創作料理プロジェクト」－高校生チャレンジグルメテストで2年連続グランプリ受賞－

- ア 概要 高校生が地場産品についての理解を深め、新たなメニュー創出、地域振興を目的に昨年度から始まった「高校生チャレンジグルメコンテスト in HOKKAIDO」(9月20日札幌市)。
- 食と文化の学びを深める「フードデザイン」の科目を履修している3年生を中心に、地産地消のもと同コンテストの出場を目標に地域学習を行っている。さらに2年生3名を加え創作料理プロジェクト実践研究メンバーを組織し、地元の食材、地元の飲食店組合からの技術指導



を受けながら、「食育」を学んでいる。

- イ 取組内容 羅臼産のイカをパウダーにして練り込んだ皮に、イカチリ味の具材とイカと相性の良いタコの吸盤以外をすり身にし、ネギと大きめに切った吸盤を混ぜバーナーであぶった2つの具材を包み揚げた「らうす紅白揚げ」を開発。実践研究メンバーと羅臼町の飲食店関係者や栄養士さんとともに試行錯誤して改良した物が「味の匠賞」に。また、フードパックにシールを貼り、1年生が授業で作成したチラシを店舗装飾に使い、丁寧に商品説明を行った結果「ストア・オペレーション賞」を受賞。羅臼町全体が創作料理プロジェクトの活動を応援し協力した結晶である。



- 5 健全な心身の育成に向けた特色ある取組—小中高町内合同清掃活動—  
ア 概要 一貫教育の特別活動部会の取組の一つである「町内一斉



清掃」は町内の小中高生が一堂に会し、各漁港や道路を中心とした全15カ所を実施。羅臼地区と春松地区に分かれ、小中学生の班に高校生がリーダーとして班を組み、ゴミ拾いを行う活動である。

- イ 取組 今年度は9月18日に実施。ゴミの中にはカップラーメンや空き缶・空き瓶などの生活ゴミが多く見られた他に、大型のゴミや危険ゴミなども見られた。中には、時間内に全てのゴミを拾いきることが出来なかった場所もあり、ゴミの多さを実感した。  
世界自然遺産知床の自然を守るために何が出来るのか・何をすべきなのか、羅臼町のこれからの担う中高生がこれらの問題を考える機会を与えてくれる、有意義な活動であった。

- 4 郷土愛・勤労観の育成 一幼小中高の15年を見通した総合学習「知床学」—  
知床の自然を題材に、地域学習をふんだんに取り入れ、地域を愛する児童・生徒の育成に努めている。  
今後は教科・科目とのつながりを持たせ、知床学の充実と発展に努めたい。

幼稚園	小1	小2	小3	小4	小5	小6
・身近な動植物に関心を持つ ・身近な自然のすばらしさを感じる ・クマ学習	・地域学習 ライフセンター 間欠泉見学		・地域学習 羅臼川河川敷 ・外来種についての学習 セイヨウオマルガキ 環境省協力		・地域学習 ・クマ学習	・修学旅行 ・羅臼湖登山
中1	中2	中3	高1	高2	高3	
・クマ学習Ⅰ クマ遭害時の対処法	・生態系学習Ⅰ 水辺の生物 (川) ・外来種駆除学習 アメリカオニアザミ等	・クマ学習Ⅱ クマと共存する社会	・生態系学習Ⅱ 水辺の生物 ワシの観察 (野外巡検)	・クマ学習Ⅲ クマ学習まとめ	・生態系学習Ⅲ 知床学まとめ (野外巡検)	
「ユネスコスクールの学習・発表活動」「中高合同講演会(人類が直面する環境問題を広い視野を持って直視する)」						

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）